

良識ある保守主義・情報公開

吉田つとむ

町田市議会議員 (4期連続トップ当選)

<編集発行>

〒194-0011 町田市
成瀬が丘 1-14-12
サンホワイト E103-13
自宅 042-795-7361
FAX 042-795-2726
yoshidaben@gmail.com



三内丸山縄文遺跡の視察訪問

世界遺産 北海道・北東北の縄文遺跡群の中で、とびぬけて大規模な遺跡が、青森市の「三内丸山遺跡」です。近年の1990年代に発掘作業が開始され、今から5千年前に数千人が定住していたとみられる一大集落の発見となり、移動しながら細々とした採集生活を行っていたという日本の縄文文化のイメージを覆し、栗の大型栽培を含む豊かな産物に恵まれた食生活を行っていた上に、壮大な建築物を擁した生活文化状況が判明したものです。



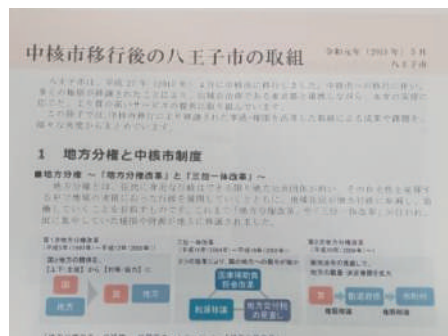
この「三内丸山遺跡」は、すでに観光地として定着しており、ウイークデーにも関わらず、バスやタクシーがそれぞれ10台以上、マイカーは100台ほどが並んでいました。これから察するに、土日や祝日の来訪者は今回の訪問日に比べると数倍に達しているでしょう。先に報告した、亀ヶ岡縄文遺跡の遮光式土偶や田小屋野貝塚の完全体の成人遺骨などと合わせて、東京、京都、奈良、九州(福岡)の国立博物館に相当する「北海道・北東北」縄文文化の発掘物を集約した施設(国立博物館)が設置されることこそ、日本文化のネットワークに相応しいと考える次第です。

町田市の中核市昇格の考えは？

町田市は人口43万人に達しており、その規模の都市は全国でほとんどの市が「中核市」と呼ばれる都市機能を持っています。しかし、町田市は中核市への移行をあえて避けてきました。都市機能を充実させるために、町田市は中核市移行を図るべきだと何度か提案してきましたが、これまでその主張はことごとく退けられてきました。

ところが、今期の石阪市長の市政方針の中に、初めて「中核市」の言葉が出てきました。その内容からは、町田市は果たして中核市を目指すのか、それとも検討ばかりを重ねるのか不明であり、次回の一般質問で伺いたしたいと考えています。この間、町田市が中核市を目指さなかったのは、中核市移行に伴う財政負担が大きく、従来そのままのままでいたいとするものでした。

隣の八王子市が中核市に移行(2015年4月1日)して7年が経過し、着実に自治権の行使を拡大しており、東京都が担った福祉、教育、環境などの分野の業務を移管しています。行政の効率化、住民サービスの利便性を考慮し、町田市の前進を今後の目標にするべきだと再提案する必要があると考えています。



八王子市都市戦略部、都市戦略課を訪問し、詳しい資料を頂きました。

◎水耕栽培メロン 世界一決定戦を開催しよう！(新スローガンを提起しました)

◎支持政党なしの方々の代表=吉田つとむの基本理念は、良識ある保守主義です。

◎吉田つとむは、「若者育成」をトップの政策に掲げています。

●吉田つとむは令和4年2月実施の市議会議員選挙で、4期連続のトップ当選を果たしています

若い世代の育成に全力をささげる
町田市議会議員(4期連続トップ当選)

吉田つとむ



ブログ 個人HP



メールは
左記を読込
して送信



好評インターンシップは、夏季の第50期生がスタート

安倍元総理殺害動機と統一教会の特異性

安部元総理が、山上容疑者によって銃撃されたのは、7月7日のことでした。当初、新聞TVでは、山上容疑者の母親が「特定の宗教団体」に多額(1億5千万円)の寄付を重ね、家庭が破産し、それを恨み、その教祖を殺害しようとしたが、果たせず、安倍元総理が縁があると思い込み、襲撃したという内容で大半報道されました。1週間を経て、読売新聞は、その宗教が「世界平和統一家庭連合(旧統一教会)」であり、<捜査関係者によると、「母親が(同連合)「(安倍氏が)団体とつながりがあると思ってやった」説明している。>という記載に替わりました。容疑者の動機が「思い込んで犯行に及んだ」という記載から、上記に変わったのですが、警察への説明は一貫していたのでしょうか。



青森県内の縄文遺跡を巡る最中に事件を聞く

その後、「統一教会」と政治家、とりわけ、故安倍元総理、自民党安倍派とのかかわりが徐々に明らかになってきました。右派系、日本至上主義的な主張の政治家・評論家が、韓国至上主義、かつ、日本人から高額の献金を回収してきた旧統一教会(とその関係団体)の活動を支援していた、支持していたという不明朗さの全容が公開されるならば、日本の政治の健全化への方向が出てくるでしょう。

インターン体験記①近藤 咲月

参議院議員会館を訪ね、山東昭子参議院議員(前議長)の事務室などを内部見学することができました。実際の建物の中は想像以上に多くの役職の方が出入りしている印象を受け、「参議院」といっても様々の人が関わっているのだと感じました。

見学後は、(吉田議員の元インターン生の)国会職員の方に直接お話をさせて頂く機会ができました。そのインターンに参加したきっかけや自分の将来設計についてのアドバイスを頂くことができました。助言として、将来の道について悩んだ時に「やってみる」ということが大切なのだを教えて頂きました。自分の向き不向きは実際に挑戦してみることで感じる事ができ、失敗しても軌道修正はできるという励ましの言葉がとても心強いものとなりました。その方は参議院事務局の管理職(課長補佐)でしたが、国家公務員として働くことを決めたきっかけや女性としての働きやすさなど「国家公務員」という仕事を知る機会となりました。



昭和女子大学2年 近藤咲月(第50期研修生)

◎吉田つとむのインターンシップは1998年に開始、2022年4月末より50期生が研修を開始しました。

◎インターン生に政治活動の参加は一切求めず、あくまで社会勉強・見学のメニューです。

◎夏季のインターンシップは引き続き第50期生となりますが、合計3名が参加予定です。